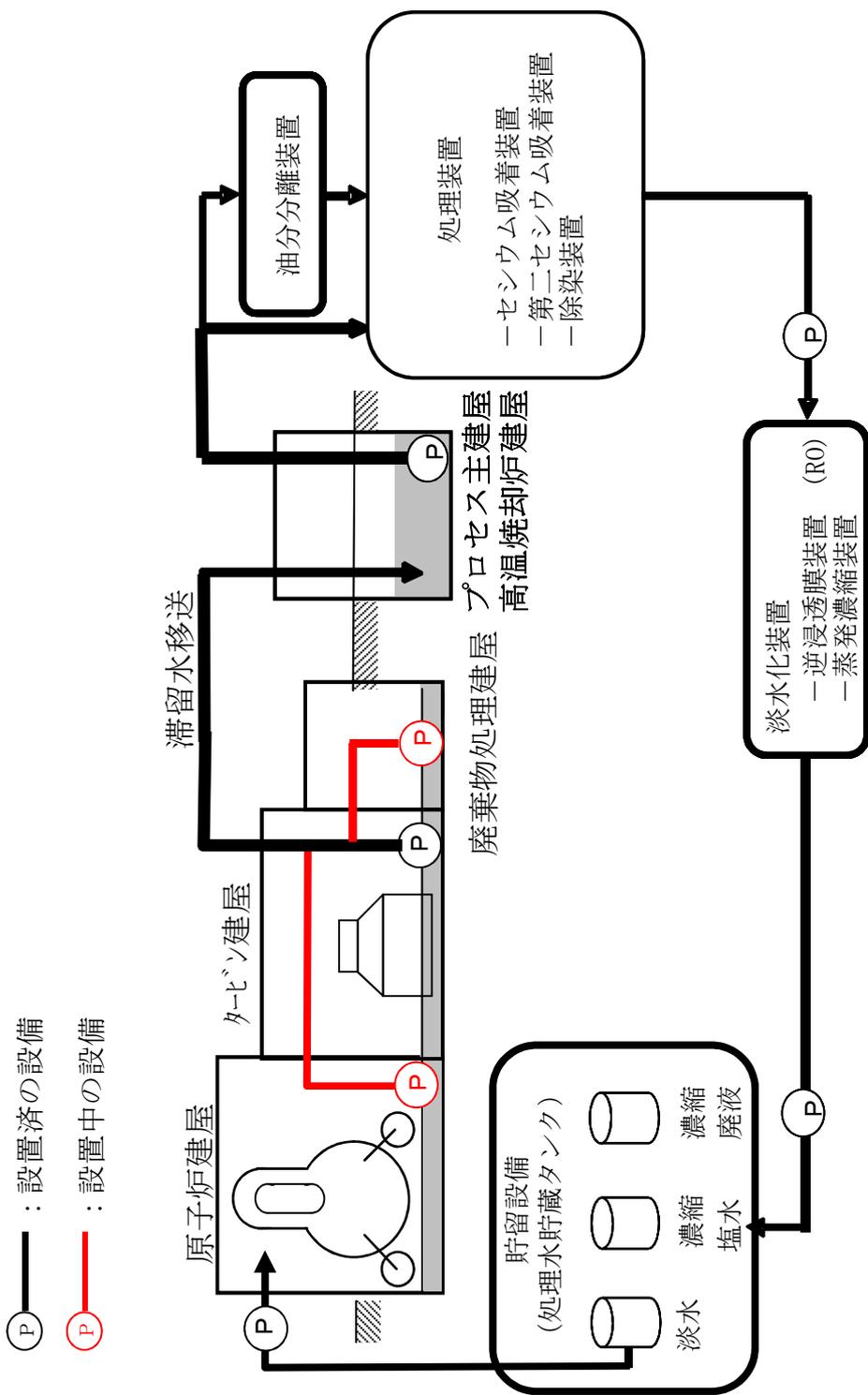


参考資料集

建屋滞留水処理の進め方と課題について

平成 27 年 3 月 3 日

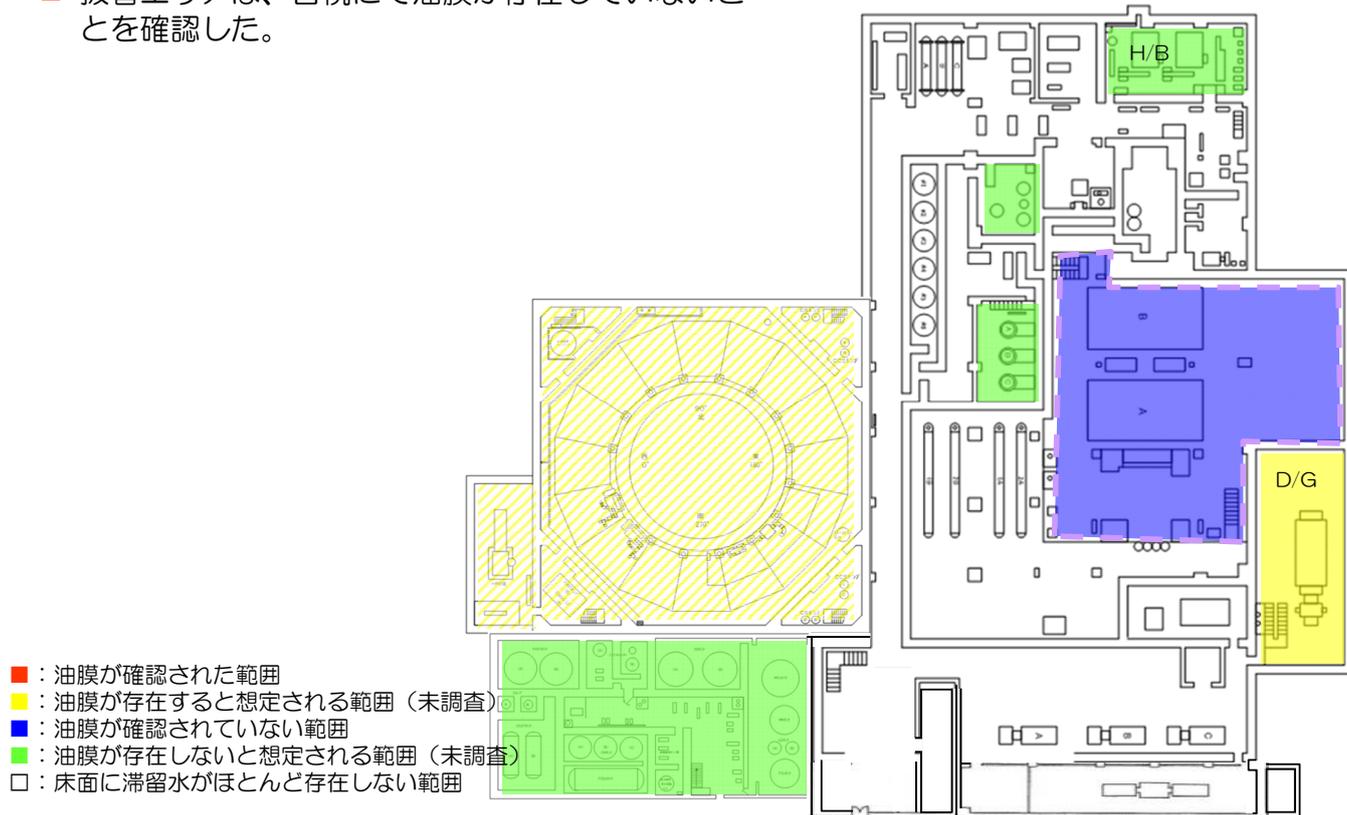
東京電力株式会社



滞留水処理の流れ

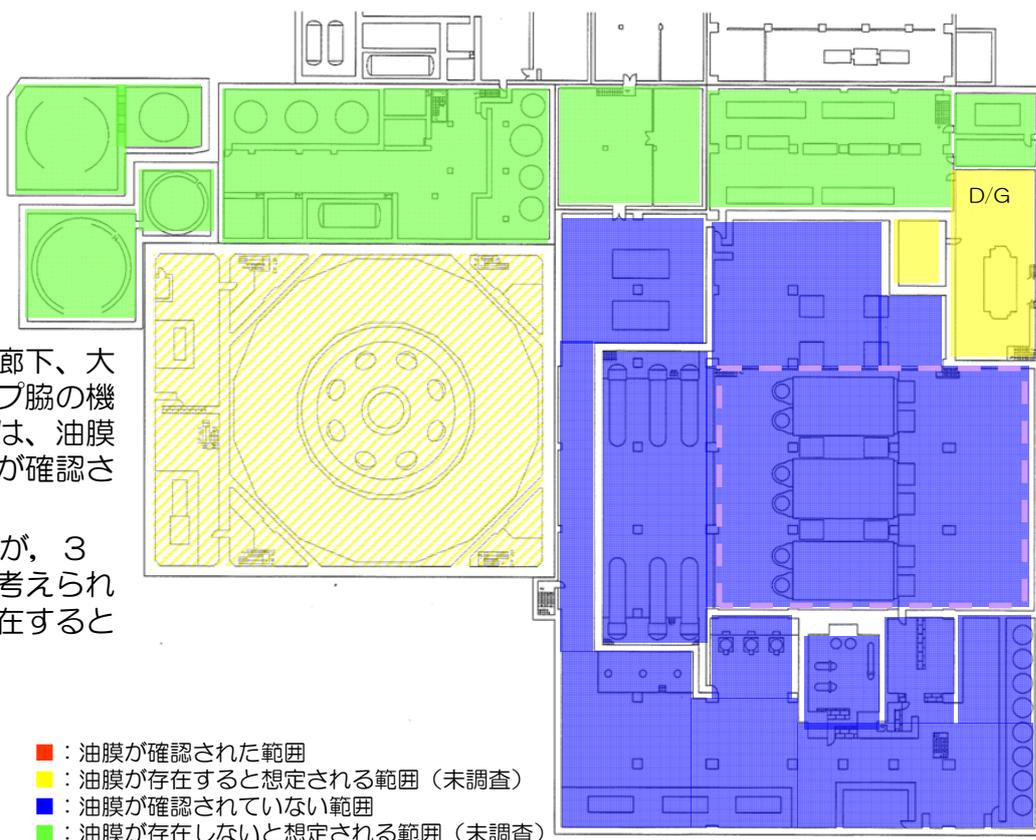
油分布状況（1号機）

- 抜管エリアは、目視にて油膜が存在していないことを確認した。



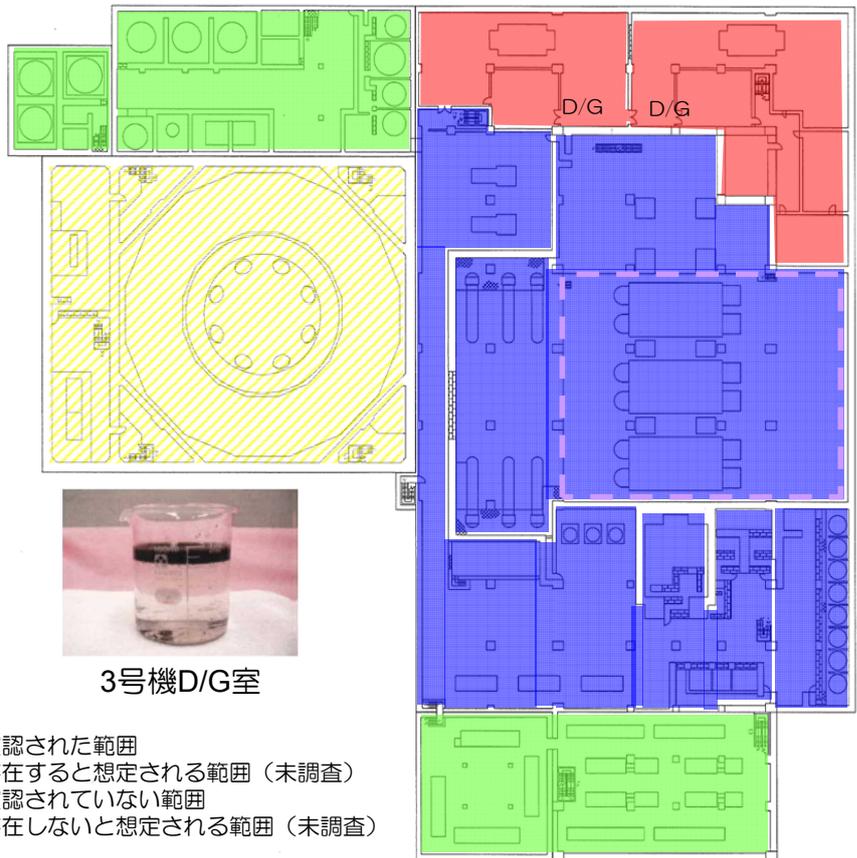
油分布状況（2号機）

- ヒーター室、竹の廊下、大物搬入口奥スロープ脇の機器ハッチにおいては、油膜が存在しないことが確認された。
- D/G室は未調査だが、3号の状況と同等と考えられるため、油膜が存在すると想定される。



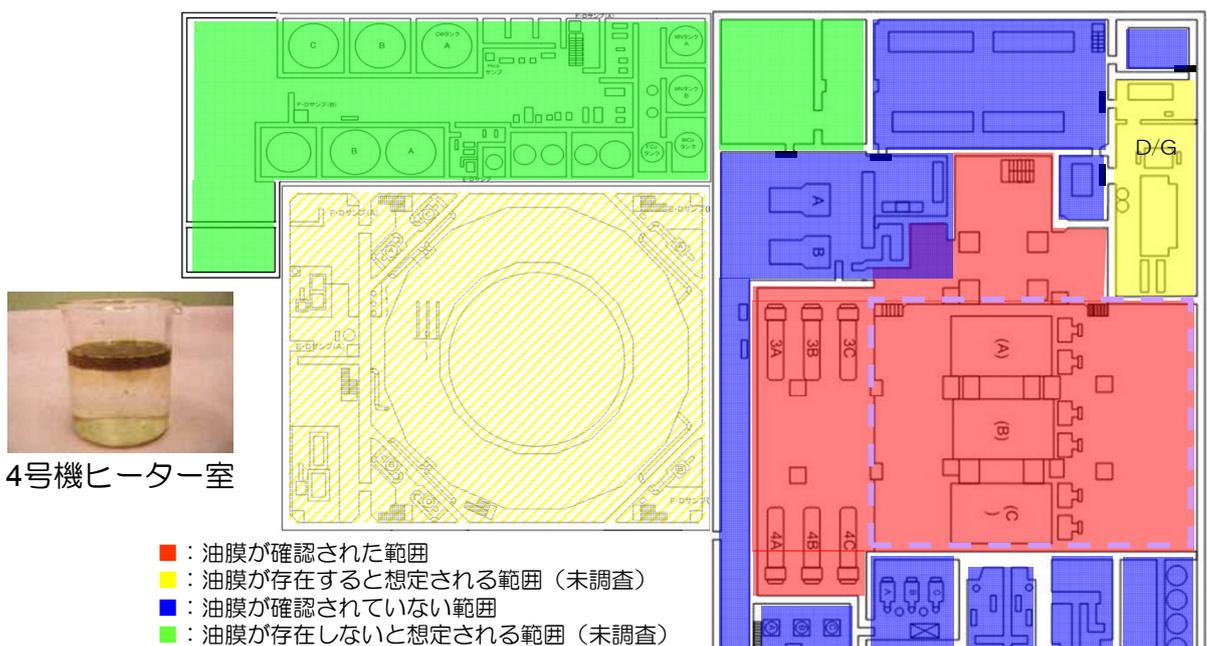
油分布状況（3号機）

- D/G室エリアで油膜が確認された。

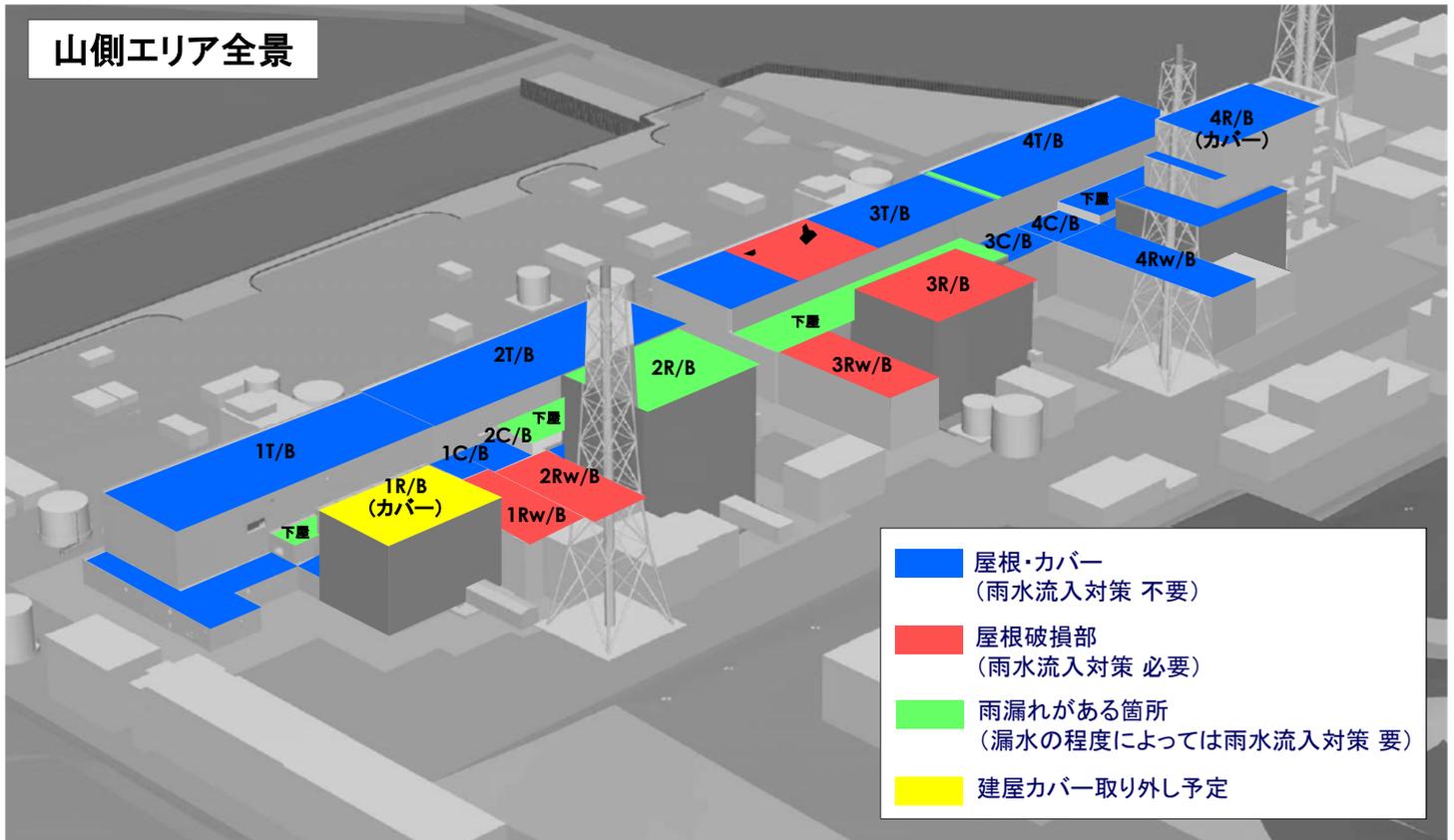


油分布状況（4号機）

- ヒーター室エリアに油膜が確認された。
- その他のエリアは、数十ppm程度であり油膜は確認されない。

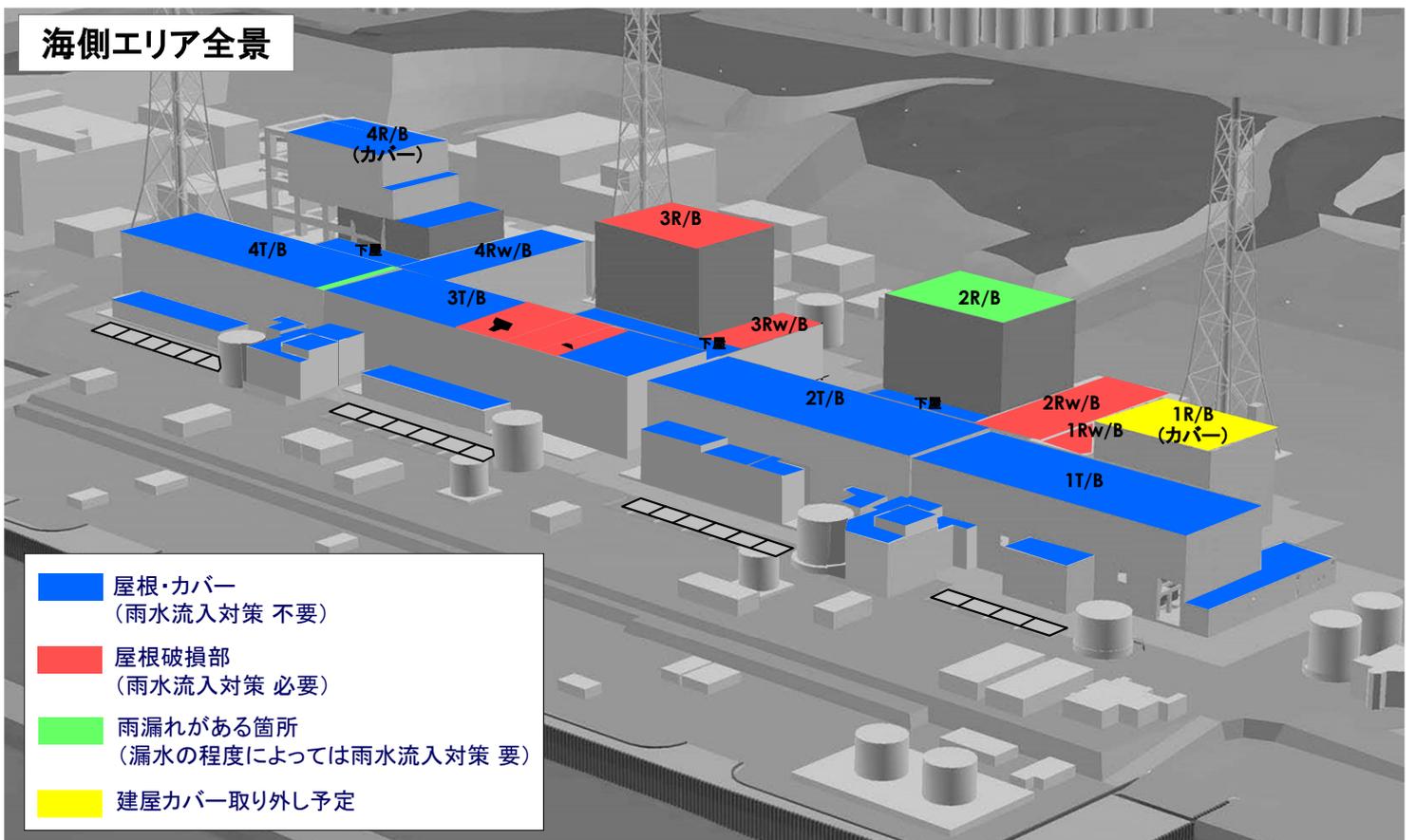


山側エリア全景

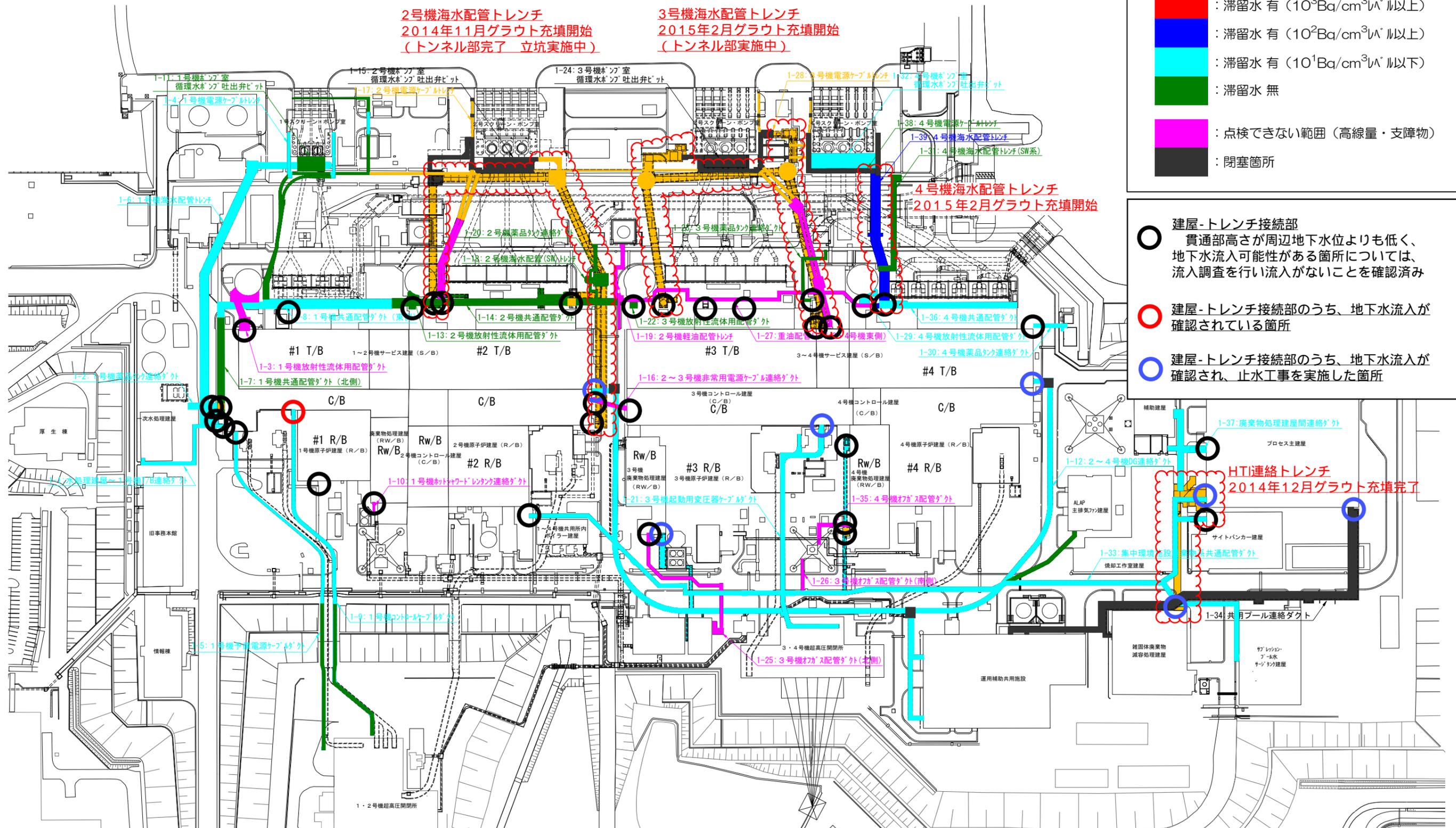
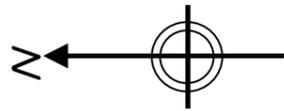


(参考) 屋根状況一覧 (2 / 2)

海側エリア全景



建屋 - トレンチ接続部一覽



2号機海水配管トレンチ
2014年11月グラウト充填開始
(トンネル部完了 立坑実施中)

3号機海水配管トレンチ
2015年2月グラウト充填開始
(トンネル部実施中)

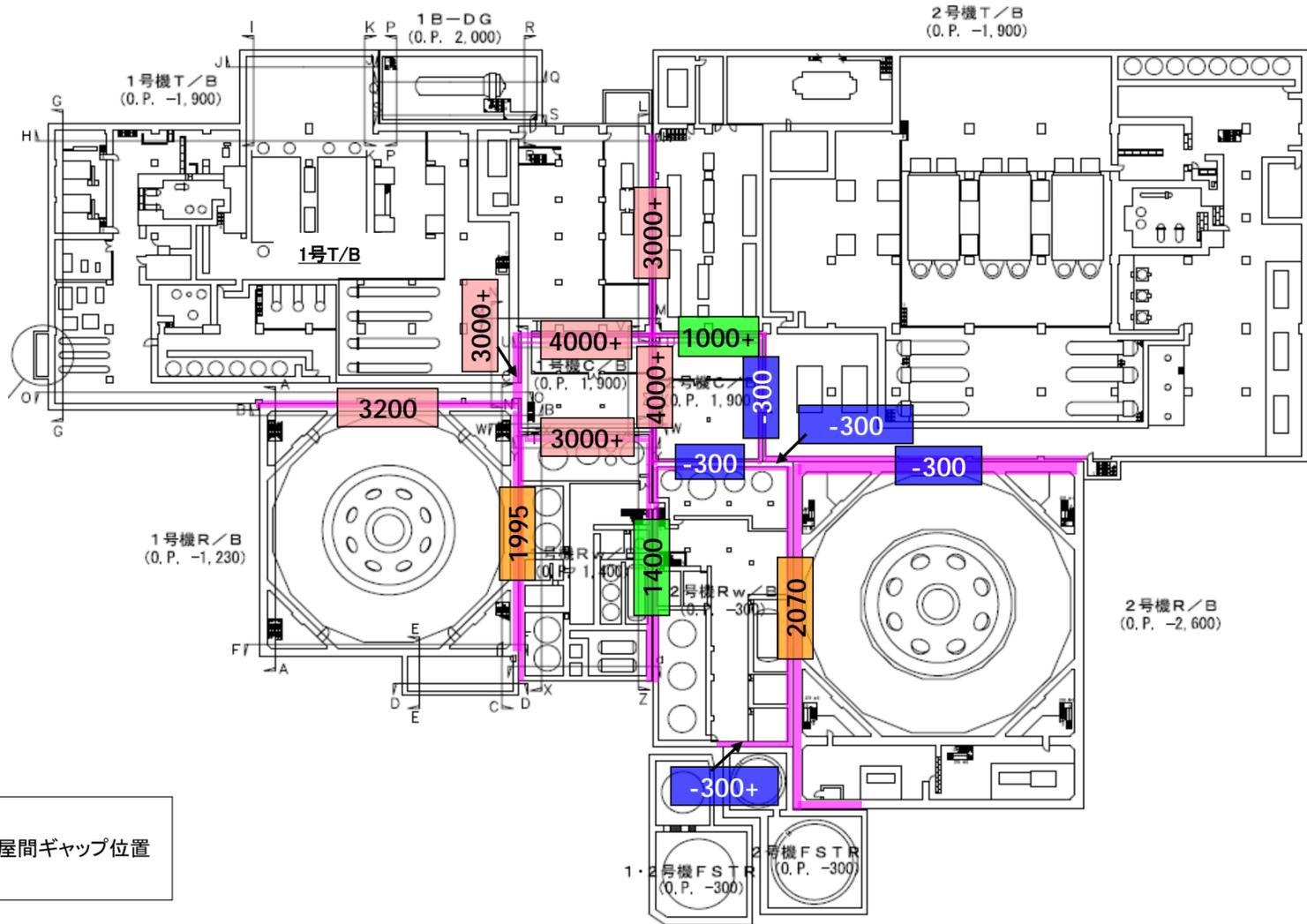
4号機海水配管トレンチ
2015年2月グラウト充填開始

HTI連絡トレンチ
2014年12月グラウト充填完了

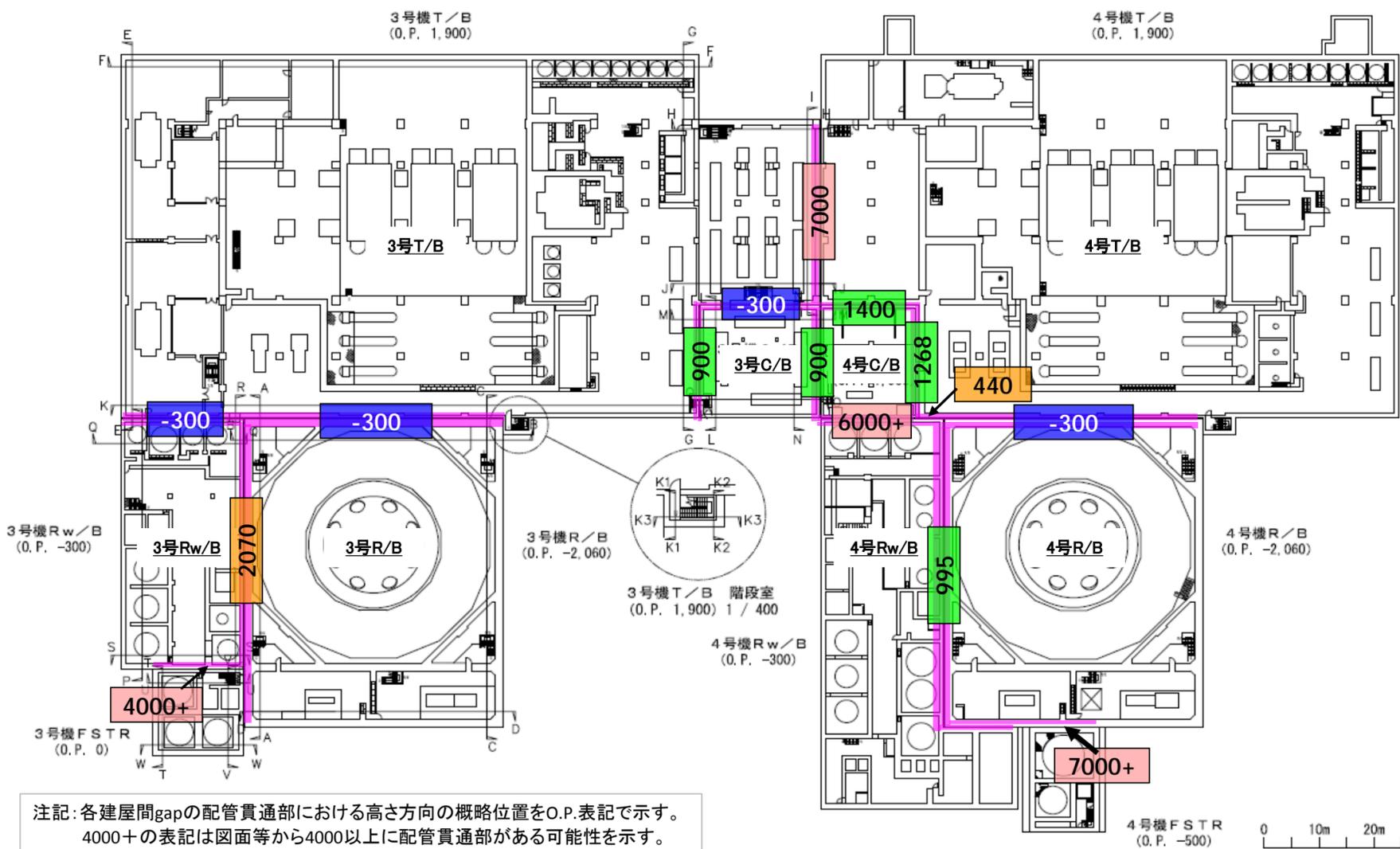
- 凡 例
- : 滞留水有 (H24.1以前の点検で $10^3\text{Bq}/\text{cm}^3$ 以上が想定される)
 - : 滞留水有 ($10^3\text{Bq}/\text{cm}^3$ 以上)
 - : 滞留水有 ($10^2\text{Bq}/\text{cm}^3$ 以上)
 - : 滞留水有 ($10^1\text{Bq}/\text{cm}^3$ 以下)
 - : 滞留水無
 - : 点検できない範囲 (高線量・支障物)
 - : 閉塞箇所
- 建屋-トレンチ接続部
貫通部高さが周辺地下水位よりも低く、地下水流入可能性がある箇所については、流入調査を行い流入がないことを確認済み
 - 建屋-トレンチ接続部のうち、地下水流入が確認されている箇所
 - 建屋-トレンチ接続部のうち、地下水流入が確認され、止水工事を実施した箇所

「平成25年度トレンチ内等溜まり水調査結果一覽」に加筆
平成26年度版の上記資料は、現在取り纏め中

1,2号機



3,4号機



注記:各建屋間gapの配管貫通部における高さ方向の概略位置をO.P.表記で示す。
 4000+の表記は図面等から4000以上に配管貫通部がある可能性を示す。

